

【別紙様式】

課題名：種子島レザーリーフファンの産地育成

所属名：熊毛支庁 農政普及課
発表者名：満田 見佳

<活動事例の要旨>

種子島は、温暖な気候を生かした葉物産地であり、特にレザーリーフファンは全国一の産地として花き第1号の「かごしまブランド産地」に指定され(H18)、市場から量、品質、共に評価を得てきた。

一方、生産者の高齢化や生産資材高騰による新規ハウス導入、規模拡大が進まない状況があり、面積・生産量は減少傾向にある。

そこで、「日本一」の強みを生かした販売力の強化と生産体制の強化による生産者の所得向上（稼ぐ力の向上）や産地の維持・発展に向けて、①ロット確保に向けた生産者組織の一本化、②ブランド力向上に向けたGI（地理的表示）登録への取組、③「低コスト多機能（省力化）ハウス」の開発・実証、④若手・新規生産者の育成や新規生産者確保に向けた遊休ハウスのマッチングシステム構築に取り組み、生産基盤の強化を進めた。

1 活動の課題・目標と策定過程

(1) 課題・目標と設定理由

種子島で昭和60年に20aから開始したレザーリーフファン栽培は平成18年に約15haに生産面積を増やし、「かごしまブランド産地」に指定された。その後平成22年をピークに生産者の高齢化とともに面積及び生産量が減少傾向にある（令和5年：11.3ha）。また30年前に導入されたハウスは老朽化し、資材が高騰する現在、ハウス導入や規模拡大が進まない。

今後の産地維持発展に向けた生産者の確保や稼ぐ力の向上を図るために、ブランド力の強化やハウス設置コストの削減、若手・新規生産者の育成・確保に取り組む。

(2) 計画の策定過程

関係機関・団体、生産者と課題と目標を共有し、熊毛支庁農政普及課の普及計画「種子島の特性を生かした産地づくり（花き）」①組織活動支援、②コスト削減に向けた支援（調査研究）、③若手・新規生産者の育成に位置づけ、活動を行った。

2 普及指導活動の内容

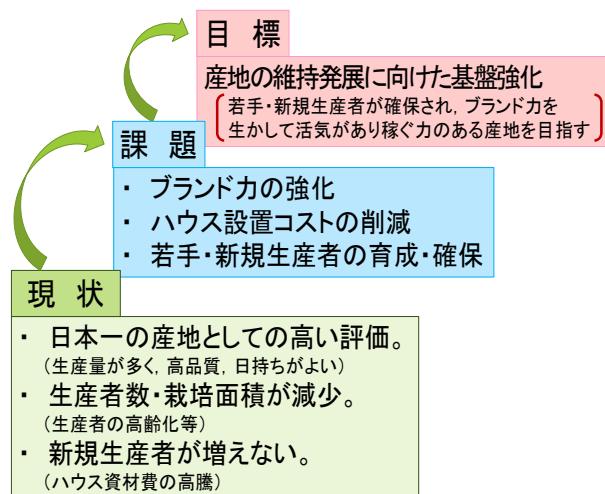
(1) 活動の経過

ア ブランド力の強化に向けた取組

生産者組織を「種子屋久農協花き振興会」へ再編、統合支援を行い、ロットの集約による有利販売や更なるブランド力の強化（GI登録）を図った。

イ ハウスの設置コスト削減に向けた取組

地域振興事業を活用して、地域慣行ハウス（KPH型ハウス）より安価で、同等の耐風強度や作業性向上を図る「低コスト多機能モデルハウス」の開発、実証を行った（調査研究）。



ウ 若手・新規生産者の育成、確保に向けた取組

若手・新規生産者を対象に、技術向上と生産者間の交流促進を目的とする研修を行った。また、新たな生産者の確保に向けた遊休ハウスの活用検討を行った。

(2) 指導・支援の体制

熊毛支庁、島内各市町、種子屋久農協が一体となり、産地振興に取り組んだ。

3 普及指導活動の成果

(1) 目標の達成状況とその要因

ア 関係機関・団体と生産者が協議を重ね、課題を共有したことで、各市町別にあった生産者組織を「種子屋久農協花き振興会」に一本化することができた。ロットの集約による有利販売の取組や厳しい選花基準を遵守することで単価は向上し所得向上につなげた（販売平均単価28円/本(R1)→35円/本(R5)、单収8万本の場合、販売金額が56万円/10aの増）。

イ GI（地理的表示）に登録され、ブランド力の強化と販売戦略の幅を広げることにつながり、生産者の生産意欲向上につながった（図1）。

ウ 低コスト多機能モデルハウスの開発・実証に取り組み、地域慣行ハウスより設置コストが約3割削減され、同等の耐風強度を持ち、作業性の向上が図られる事を確認した。実証農家の評価も高いことから、今後の普及推進を図る（図2）。

エ 研修を通して、若手・新規生産者の技術向上と先輩生産者や若手・新規生産者間の交流促進が図られている（図3）。

オ 古いハウス、遊休ハウスを利用した若手・新規生産者の栽培面積が増えた

(H30: 3名、36a → R6:11名、124a)。新たな生産者を確保するために、関係機関・団体、生産者代表と連携して遊休ハウスの現状把握を行い、貸し借りに向けた取組検討につなげた。

(2) 活動に対する生産者・農家の評価

ロットの確保やブランド力向上等の取組により、新規就農者や若手生産者に魅力ある品目として認識されつつある。今後も、ハウス導入支援を含め、新規生産者の確保・育成を継続して進めてほしい。

(3) 地域農業振興への貢献

ア 島内のレザーリーフファン以外の葉物枝物（フェニックスロベレニーやヒサカキ等）生産者にも葉物枝物産地としての気運醸成が図られている。

イ 遊休ハウスの再利用により、遊休農地の解消につながっている。

ウ GIを取得したこと、「種子島」の知名度アップにつながっている。

エ レザーリーフファンの栽培では、島内のバガス（さとうきびの搾りかす）を保温や保湿、除草、土作り対策に利用しており、島内資源を活用した循環型農業を行っている。

4 今後の普及指導活動に向けて

(1) 新規就農者や若手生産者の育成、確保に向けた取組（継続）。

(2) 所得向上に向けた取組（継続）。

(3) GIを契機とした市場価値を高める取組（新規）。



図1 GI登録



図2 低コスト多機能モデルハウス



図3 若手・新規生産者研修会